

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 8 月 8 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671700205
法人名	医療法人 青鳳会
事業所名	グループホーム みま
所在地	徳島県吉野川市鴨島町上下島499番地21 (電話) 0883-26-0250
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年8月8日

## 【情報提供票より】(平成20年 6月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 6月 1日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	22 人 常勤 20人, 非常勤2人, 常勤換 1階 7.5人, 2階 6.7人, 3階 7人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000~36,000 円	その他の経費(月額)	その他実費
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ - 円
	または1日当たり		- 円

### (4) 利用者の概要( 6月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性 7 名	女性 20 名
要介護1	7 名	要介護2	11 名
要介護3	8 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.7 歳	最低 60 歳	最高 100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 美摩病院 井上歯科
---------	----------------

徳島県 グループホームみま 1

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は商店街に近く人や車の往来が絶えない地区に位置している。近隣には医療機関や老人保健施設、保育所などがありその中で地域密着型サービスとしての拠点となっている。また職員による毎日のモニタリングと医療連携体制により、一人ひとりの体調変化や異変への対応が早く、利用者や家族は日々の暮らしを安心して送っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催し、同業者同士協働しながらの質の向上が図られており改善されている。研修報告書の全職員の回覧については改善されていない。また、鍵をかけないケアの実践では利用者の全居室の窓にロックがかかっていたが、現在は不穏状態の方の居室の窓にのみ鍵をかけている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者や管理者、職員は評価の意義を理解して各ユニットで取り組み、今後の課題や改善点を全員で共有している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者家族や自治会長、老人会長、民生委員、婦人会役員で構成され、今年1月からは地域包括支援センター職員も出席している。また利用者家族全員に案内通知を出し、多くの出席と意見などが得られるよう工夫している。事業所からはサービスの実施や評価への取り組み状況などを報告し、参加者からは気付きや意見などが出されている。話し合った内容をもとにサービスの向上や地域との交流、危険箇所の改善や職員の勉強会などに繋げている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の暮らしぶりや健康状態を家族に毎月報告し、2~3か月に1回は近況報告を兼ねた写真入りのグループホーム通信を送付している。各ユニットに意見箱を設置したり、家族の来訪時や近況報告時には要望など何でも言ってもらえるよう積極的に話しかけるなどしている。意見や要望等は真摯に受け止めて全職員で話し合い、サービスの改善に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>花見や夏祭り、敬老会等の時には老人会や婦人会など地域の方々や家族を招いてホームの現状を知ってもらったり、利用者とともに食事会を開いて交流を深めるなどしている。また気候の良い日には近所への散歩やスーパーへの買い物などへ出かけ、挨拶などを積極的に行い馴染みの関係づくりを行っている。また地域の方の好意によって緊急時の避難場所が確保されている。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員等で話し合い地域の方々との交流を含めた事業所独自の理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各ユニットの玄関やホールの見やすい所に掲げ、グループホーム通信にも掲載している。また毎朝の申し送り時に全職員で理念を唱和し、共有と実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	花見や夏祭り、敬老会等の時には老人会や婦人会など地域の方々や家族を招いてホームの現状を知ってもらったり、利用者とともに食事を開いて交流を深めるなどしている。また気候の良い日には近所への散歩やスーパーへの買い物などへ出かけ、挨拶などを積極的に行い馴染みの関係づくりを行っている。また地域の方の好意によって緊急時の避難場所が確保されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員は評価の意義を理解して各ユニットで取り組み、今後の課題や改善点を全員で共有している。また前回評価も見直し点検と改善に繋がっている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者家族や自治会長、老人会長、民生委員、婦人会役員で構成され、今年1月からは地域包括支援センター職員も出席している。また利用者家族全員に案内通知を出し、多くの出席と意見などが得られるよう工夫している。事業所からはサービスの実施や評価への取り組み状況などを報告し、参加者からは気付きや意見などが出されサービスの向上や地域との交流、危険箇所の改善などに繋がっている。会議内容が全職員で共有されたことがわかる記録がない。	○	会議内容が全職員に共有されたことがわかるよう、回覧しサインや確認印を残すなどされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課や生活保護課、地域包括支援センターへ毎月訪問し、相談したり指導や助言を得るなどしてサービスの向上に繋がっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態を家族に毎月報告し、2～3か月に1回は近況報告を兼ねた写真入りのグループホーム通信を送付している。また利用者や家族の状況に合わせた個別の報告もある。金銭管理は出納帳に記入して家族にサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内部の苦情・相談窓口担当者を明記し、各ユニットの玄関には意見箱を設置している。また家族の来訪時には要望などを気軽に言ってもらえるよう積極的に話しかけている。意見や要望等は真摯に受け止めて全職員で話し合い、サービスの改善に努めている。外部への苦情・相談窓口は各フロアの玄関に表示されているが、重要事項説明書などへの記載がない。	○	外部への苦情・相談窓口は重要事項説明書などへも明記することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に留めている。またユニット間での異動があった場合は異動前のユニットに顔を見せたり、離職した場合にも気軽に立ち寄ってもらうなどして利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に法人内外の研修会に参加し報告もされている。また研修報告書について各職員からアンケートを出してもらい気付きや意見などが聞けるよう工夫している。しかし、報告書に全職員が回覧したことがわかる回覧印などがない。	○	研修報告書へは内容が全職員に共有できたことわかるよう確認印やサインなどが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入して研修会に参加し、同業者との交流や情報交換などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人と家族に見学に来てもらうことがある。また家族から本人の日常生活や生活感、趣味、嗜好などの情報を得て利用者にあつた支援を提供するなど、徐々に馴染めるような配慮と工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔からの行事や習慣を教えてもらったり、料理の味付けや縫物、洗濯物たたみなどを一緒に行い楽しみながら共に支えあえる関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での言動などから希望や思いの把握に努めている。意向の把握が困難な利用者については、日頃の様子や家族の希望などに配慮して本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を第一に反映させ、医師や栄養士など必要な関係者と話し合っている。日々の生活の中で把握した本人の意向や職員の気づきなどをモニタリング帳に記入してカンファレンスを行い、計画の達成度や今後のケアについて討議し計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに定期的に見直している。また利用者の意向や職員の気づきなどのモニタリングにより、状態の変化や目標の達成度など一人ひとりの状態に合わせた見直しを行っている。本人や家族、関係者の意見を聞き、全職員で話し合い新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり専門医の訪問診療や毎日の看護師の来訪による健康管理や相談などが行われている。また通院などの支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており眼科や歯科、耳鼻科、皮膚科など希望する医療機関への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について本人や家族、医師らと話し合い文書などで方針を共有している。また日常の健康管理や急変時などの対応方法などについても話し合い方針が統一されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけなどをミーティングで確認し合っている。記録などの個人情報の取り扱いや守秘義務についても明文化し、保管もされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時間や食事の時間など利用者のペースを大切にして支援している。一日の流れの中でスケジュールの変更が困難な場合もあるが、できる限り一人ひとりの希望を大切にした支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が立てた献立によって母体法人で作られた食事をホームで配膳している。またおやつ時や誕生会、行事などでは利用者と話し合い、ホーム内で希望のものを作っている。お弁当にしたり外出に出かける場合もある。キザミ食やとろみ食など利用者の体調や咀嚼力に配慮した食事となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせた入浴支援を行っている。入浴を拒む方へも話をしながら誘導したり、時間をずらして他の職員が声をかけるなど、タイミングを計りながら支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や習字、洗濯物たたみ、台拭き、花の水やりなど一人ひとりの生活歴や力量を活かした役割が生活の張り合いや楽しみ事となっている。日曜日には歌の好きな利用者が集まりコーラスを楽しむなどしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	野山への花見や寺社へのドライブに出かけたり、散歩やスーパーへの買い物へ行くなど外出の機会をできるだけ多く作っている。理美容は利用者の希望により地域の馴染みの店に出かけている。また玄関先に椅子などを持ち出して花を見たり、日光浴をしながらおしゃべりを楽しむなどしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りができるときは鍵を開放しているが、玄関先がすぐ道路に面しており交通量も多く危険なため、玄関はオートロックにしている。また窓は開放しているが、不穩状態の利用者の居室の窓にはロックしている。	○	日中は鍵をかけないケアに取り組まれたたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。また災害対策マニュアルを作成したり、各ユニットの避難経路を図式に表わして目につくところに掲示するなどしている。地域の方に依頼して災害時における一時避難場所も確保されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分摂取量や毎月の体重の変化を記録して医師や看護師からの助言を得ながら支援している。水分は各部屋に置かれ、声をかけるなどして摂取できるよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りのプランターには花や日よけのゴーヤが植えられている。食堂には生け花を飾り、各部屋の入口には利用者が書いた季節に応じた「書」が飾ってあるなど、各所に季節感を感じられる工夫がされている。利用者は台所の音やにおいの中でおしゃべりを楽しんだり、テレビ鑑賞や廊下を散歩するなど思い思いに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族からのプレゼントやホームでの生活の写真、家から持ってきた馴染みのテレビや家具など本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		